

令和5年度 京都市役所環境マネジメントシステム 外部有識者会議 会議録

- 1 日 時：令和6年3月25日（火）午後1時30分～午後3時
- 2 場 所：京都市役所 環境政策局会議室
- 3 出席委員：花田会長、小林委員（オンラインで出席）、杉本委員、山田委員
- 4 議 題：(1) 令和5年度のKYOMSの取組について（報告）
(2) 課題及びその改善策について

＜開 会＞

環境政策局 環境企画部 環境技術担当部長 挨拶

＜議題1 令和5年度のKYOMSの取組について（報告）＞

- 事務局 資料1及び資料2について説明
- 委員 研修動画は市民も視聴できるのか。
- 事務局 一般には公開しておらず、職員のみ視聴可能である。
- 委員 マイボトル使用率が特に低い職場があり、取組に温度差があるように思われる。
- 事務局 外勤が多い職場が比較的マイボトル使用率が低い傾向にあった。外勤先ではマイボトルのみの飲料では足りず、給水スポットが十分でないことから、ペットボトルや缶等の飲料の購入につながりやすい。しかしながら、マイボトル持参率が2～3割で良いとは考えておらず、引き続き、職員の取組意識を高めていく。
- 委員 市民のマイボトル持参にもつながるため、給水スポットの増加を政策と併せて是非推進いただきたい。
- 事務局 市役所や区役所・支所等には給水スポットを設置している。給水スポットの拡大に向けて、担当部署と連携して取組を進めていきたい。
- 委員 コピー用紙消費量が2期連続で大きく減少しており、効果的に取り組んでいる印象を受けた。
- 委員 研修動画の長さはどれくらいのものか。
- 事務局 担当者研修は全部で30分程度。その他の研修でも、セクションごとに分けて、1つが20～30分になるようにしている。
- 委員 動画視聴は都合の良いときに、繰り返し見ることができるというメリットはあるものの、対面に比べて、受講者の熱意や真剣さが異なると感じている。単なる動画視聴ではなく、内容に関するクイズをいくつか設けるなど、何らかの確認を行うことで、効果的な研修になると思われる。
ガソリン使用量は新型コロナウイルス感染症拡大前と比べるといかがか。

事務局 内部環境監査員の養成講座については、受講後の質問を設けており、6割以上正答しなければ、監査員にはなれないことになっている。ほかの研修については、単に履修報告を求めるのみである。

ガソリン使用量については、令和元年度に比べて、令和4年度は減少している。KYOMSを開始した平成22年度から、少しずつ減少してきている。

委員 新型コロナウイルス感染症拡大時と比べると、どうしても今後は増加傾向になる。特殊事情と比較しても仕方がない。

エコカーの導入は行っているのか。

事務局 エコカーの導入も行っているが、全ての車両がエコカーというわけではない。車両の買替えの際には、一定のエコカー基準を満たさなければならず、全て地球温暖化対策室でチェックを行っている。

委員 重点項目を設けると成果が出ているように思われるが、いかがか。

事務局 いずれの年度においても、重点項目に設定した項目は前年度に比べると改善している。

令和3年度に重点項目としたコピー用紙については、3年連続で前年度比約1割減少している。ただし、KYOMS開始時の平成22年度レベルに戻ったところであり、削減余地はまだあると考えている。

令和4年度のマイボトル・マイカップの使用については、半期ごとの実績報告において使用者率を把握しており、全体平均で使用者率は8割である。

令和5年度の電気使用量の削減については、上半期の比較であるが約6%減少しており、猛暑日が過去最多で冷房需要も高かったと予想される中、各所属で取組が進んだ。

委員 人数を調査しているという点が良い。周りがマイボトルを持っていると、自分も同様に持ってくるようになるので、マイボトル使用者率は部署の人数に左右されるのではないか。

令和5年度の上半期において、備品のグリーン調達が無達成の理由は何か。

事務局 金額ベースで評価を行っている。購入した備品の一部が高価で、環境配慮品ではなかったために、目標達成に届かなかった。

委員 参考情報であるが、ハンプルクでは、商品の値段が高いほど、グリーン調達の基準が厳しくなっており、非常に合理的である。

<議題2 課題及びその改善策について>

事務局 資料3～資料5について説明

委員 局区等間監査に同行する度に、現場の対応が大変であると感じる。一方で、監査する側がアイディアを受け取ることができる良い仕組みである。業務負担は確かに大きいかもしれないが、この仕組みで続けてほしい。

委員 それほど多く監査に同行してはいないが、段々と上手になられていると思う。最初はぎこちない印象があったが、今回は監査側も被監査側もスムーズにコミュニケーションをとられていた。

今回は交通局の監査に同行したが、1つ気になった点は、監査員がごみ箱を点検しても良かったと思う。実際に空のごみ箱が多かった。監査があるから朝一で掃除をしたのかと思った。もう少しパフォーマンスを充実させても良いのではないか。

委員 私は雑然と物が置かれており、危ないと指摘した。

事務局 監査で外部有識者や監査員に指摘いただくことで改善につながっているので、頂いた見直し点を踏まえて、今後もこのような形で継続していきたい。

委員 一昨年に監査に同行した際に、仮設かと思うが、本庁舎の玄関前にごみを保管しているのに驚いた。庁舎整備中で監査すると「やむを得ない」と、見過ごしてしまうところもあるのではないかと。また、民間ビルを借りると、責任をもってマネジメントができない。京都市には、他自治体等の参考になるよう、庁舎整備中のマネジメントの在り方をモデルケースとして示してほしい。

事務局 庁舎整備中に前年度と比較する目標を設定することは難しく、できる範囲で運用面や目標設定を柔軟に検討する必要があると考えている。北庁舎の完成を見据え、マネジメントの在り方について検討していきたい。

委員 環境マネジメントシステムは、目的・目標、緊急事態、コンプライアンスの3つを文書記録により支えていくという仕組みである。最も気になるのは、緊急事態対応訓練において、具体的な行動がなされていない点である。PCBや感染性廃棄物が漏出した場合どうするか、一年に一度、具体的に行動してみる必要がある。緊急事態対応訓練の目的は、迅速かつ正確かつ安全に対応することに加え、課題の発掘もある。能登半島地震のことを踏まえても、きちんと訓練すべきである。審査の際には、訓練の様子が分かる写真も確認すべきである。

委員 緊急事態対応訓練はどのように行われているのか。

事務局 緊急時の連絡体制の確認や実際の対応の確認を求めているが、実際に土嚢を積むなどの対応を行っているか把握できていない。今後、業務負担を考慮しながら、訓練の在り方を検討していきたい。

委員 加えて、緊急事態対応計画書の中に、土嚢、保護メガネ、手袋、吸着マットなどがそれぞれいくつあるか、緊急事態対応備品を記載してほしい。現場には緊急事態対応備品の表示板も設置してほしい。

能登半島地震を契機に、緊急事態への対応を来年度の重点項目にさせていただきたいと思っている。

事務局 能登半島地震を踏まえた対応については、KYOMSに限らず、求められるため、できることを今後検討していきたい。

委員 配布資料に基づく議題は以上である。
KYOMSについて、ほかに何か意見等はあるか。

委員 KYOMSは長年取り組まれているため、ある部分では簡素化し、増やすべきところは増やすなど、運用基準の見直しも必要である。市長も交代され

たため、この機会にしっかり見直すことをおすすめする。

事務局 委員からいただいている御意見を踏まえ、毎年見直しを行い反映している。令和2年度には重点項目の設定を提案いただき、令和3年度から導入し、良い成果が得られた。今後もいただいた御意見等を随時反映させる。

委員 長年取り組んでいると惰性に流れていくため、メリハリをつけて1年ごとに、どのようなことが達成できたのか、外部の者に分かるような形で示してほしい。重点項目の設定は、メリハリをつける手法として有効である。

<閉 会>